

1. 開催状況

開催日時：平成 30 年 2 月 4 日（日） 午後 1 時 30 分～4 時 15 分

会 場：今池ガスホール

参加者数：174 名

2. プログラム

<開会>

主催者あいさつ 杉山勝健康福祉局長（5 分）

名古屋市からのご案内 名古屋市健康福祉局障害福祉部障害企画課（5 分）

<第一部>

講演『パラリンピックスポーツからの障害者理解』（45 分）

講師：リオ 2016 パラリンピック柔道銀メダリスト・名古屋盲学校教諭 廣瀬 誠 氏

【廣瀬誠氏の講演の概要】

パラリンピックの起源、歴史、現地での思い出等。リオでは家族を連れていき、子どもの前でメダルを獲得できたことは良かったと思っている。4 度パラリンピックに出場したが、回を重ねるごとに認知度や注目度が上がったと感じる。日本でも、オリンピックは文科省、パラリンピックは厚労省と分かれていたがスポーツ庁に一元化され、リオ後、オリパラ合同でメダリストのパレードが開催された。



2020 年の東京大会に向け、3 つ期待していることがある。選手にはメダルを、観客には感動を、国民には障害者理解を。

パラリンピックを通じて、日本社会の障害者理解が進んでほしい。パラリンピックを見て、知って、楽しんでほしい。開催地は東京だが、選手は日本各地にいる。パラリンピックを共生社会のきっかけとしてとらえてほしい。

私は、障害を通して、感謝の心を持つことができた。日々の当たり前と感じていたことが実は当たり前ではなかったと気付いた。ヘレン・ケラーの言葉に、「障害は不便だが不幸ではない」とあるように、不便はあるが、不幸ではないと感じている。

<第二部>

シンポジウム『障害者ある人もない人も共に生きる地域社会を目指して』（95 分）

登壇者：廣瀬 誠 氏

名畑 徹 氏（トヨタ自動車株式会社オリンピック・パラリンピック部
レガシー企画室レガシーG 課長）

神村 昌克（名古屋市障害者差別相談センターセンター長）

コーディネーター：柏倉 秀克 氏（日本福祉大学社会福祉学部
社会福祉学科教授）

【シンポジウムの概要】

廣瀬氏

- ・普段、差別を感じることは少ない。
- ・オリンピック・パラリンピック2020東京大会（以下、オリパラ2020）に向けては、



まだ東京と地方に温度差がある。オールジャパンで臨むにはまだ伸びしろがある。

・私もパラリンピックを通して自分の障害受容ができた。同じ障害のある人、周囲の人の理解を進めたい。積極的に外に出て、いろいろな人たちと関わる機会を作りたい。

名畑氏

・職場では、合理的配慮窓口を設けた。特例子会社設立の際は、セントレアを参考に、有識者や障害当事者の意見を取り入れて設計した。

・政府では、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を1年かけて議論を重ね、行動に関する共同宣言を出した。計画では、①心のバリアフリーを国民全体に広げること、②ユニバーサルデザインのまちづくりを進めることを盛り込んでいる。

・トヨタとして、心のバリアフリー活動に取り組んでいる。当事者を交えた社員研修、パラリンピック競技の体験の他、「オリパラ MY チャレンジ」と題し、オリパラを契機とした取り組みを社内実践。

・経済界でも、全国各地で370件の取り組みがある。心のバリアフリー研修の展開、駅のバリアフリーマップ作成プロジェクト等、名古屋でも取り組みが始まっており、今後も広げていきたい。



柏倉氏

・ロンドンは、パラリンピック発祥の地であり、世界中の人が集まる地域。多くの移民を受け入れてきた歴史から、多様性を認める文化が根付いている。

・本日の参加者は、身近な人に講演会のことを伝えて、すそ野を広げてほしい。一人ひとりの意識が変わるには、いろいろな機会を捉えて、障害当事者と接することが大切。

・当事者の人々は、自身に起きている「差別」をごまかさず、時にはセンターも利用してほしい。

神村センター長

・市内の相談事例や実績の紹介、対応事例を紹介した。

・差別解消法を浸透させていくために、出前講座を積極的に行っていることを紹介した。

3. アンケート結果

①アンケート回収数：94名（回収率54%）

②主な質問と回答内容：

・参加動機：「廣瀬氏の講演に興味があった」51名（37.5%）、「シンポジウムに興味があった」37名（27.2%）、「障害者差別解消法に興味があった」33名（24.3%）

・講演の満足度：「とても良かった」62名、「良かった」26名（併せて93.7%）

・シンポジウム満足度：「とても良かった」40名、「良かった」31名（併せて75.6%※）
※ただし、無回答20名（第一部講演のみ参加者等）を除く回答者中の満足度は95.9%

・障害者差別解消法の認知度：「名前も内容も知っていた」33名（35.1%）、「名前だけ知っていた」33名（35.1%）、「知らなかった」17名（18.1%）

・感想：「パラリンピックに興味が湧きました」「自分も感謝の気持ちをもって生きていきたい」「日本を代表する企業の意気込みが感じられた」「障害のある方に対する理解、どう接するかという理解が深まった」等